

とらまる人形劇カーニバル実行委員会

香川県東かがわ市

【活動概要・効果】

☆人形劇でのまちづくり

○とらまる人形劇カーニバルは、人形劇の楽しさを全国に紹介する、西日本では最大規模のイベントとして定着、イベント会場以外でも楽しめるようにと地元の企業や商店会などが協力し、地域ぐるみのイベントとして「人形劇のまち」をPRしている。

☆20年以上の人形劇のカーニバル開催により、人形劇は地域に根つき、平成19年度のイベントには約8000人が集まる大イベントとなっている。

☆また、人形劇場「とらまる座」では、年間200ステージ以上を上演し、入場者数は年間約3万人と人形劇場としては全国一の観客動員数を誇っており、関係3施設合計では平成18年度約8万人を動員するなど、「人形劇のまち」が着実に定着していることが伺える。



屋内だけでなく野外ステージでも公演

《人員確保での工夫・苦労》

市民有志が主導する実行委員会により、企画から運営まで行っている。毎回、企画を多く取り入れたいが、その分スタッフが必要となる。

現在は、専門的な技術関係スタッフをプロ劇団に依頼する一方、実行委員会のメンバーを中心に市民ボランティアが各会場の受付、接客などにあたっている。

ゆとりあるスタッフワークではないので、市民の方イベントへの理解、協力を求める活動が重要と思っている。

《活動資金確保での工夫・苦労》

現在の活動資金について、主な収入源は、市からの補助金その他、他団体からの助成金、市内商店会、企業のガイドブックへの広告掲載などである。しかし、いつまでも市の補助金などに依存するわけにはいかないので、独自で財源を確保しようと、知恵を絞っている。具体的には、収入として大きなウエイトを占めるワッペン・チケット収入に前売り料金を設定し、確実な販売を目指している。

今後も入場料収入の増加のためには、宣伝活動を継続的・効果的に展開していくことは不可欠だと考えている。

【現場の声】

地元の青年たちと人形劇団の熱意によって始まった「レクリエーションと人形劇のカーニバル」をきっかけに、「人形劇のまち」としての独自性にあふれたまちづくりが着実に進んでいる。

カーニバルでは、従来の全国からのプロ劇団の招致、地元アマチュアサークルの上演に加え、その年ごとに目玉となる新企画、上演を取り入れ、常に新鮮であるイベントを目指すとともに、子どもから、若者、お年寄りまで幅広い層が楽しめるような企画に取り組んでいる。（子ども向けの遊びの広場、人形劇の学生大会、大人向け人形劇の上演など）

また、今後、単発で終わらせず、継続的な事業であるということを前提に、長期的な展望を持つとともに、活動資金の確保、スタッフの確保は大きな課題と捉えている。

～とらまる人形劇カーニバル実行委員会
会長 川北 文雄さん



市商工会館での人形劇公演